



やさしく  
かしこく  
たくましく

**学校教育目標：心豊かに 自ら学び たくましく生きる子どもの育成**

**今週末で 交通安全運動 は終わりますが。いつもありがとうございます!**



4月6日(木)、今年度の始業式から始まった「春の交通安全運動」も15日迄で終わろうとしています。10日には1年生も入学し、慣れない登校を続けています。新年度・新学期は、新入学児がいる学校だけでなく、大人の社会でも新入社員がいたり、新米ドライバーがいたり、転職や転職等もあつたりして、環境が変わることで交通事故が増えることも考えられる時期です。日頃から子ども達の登下校に関して、地域の様々な立場の皆様から見守って頂いており大変感謝しているところです。今回の交通安全運動期間中にも、多くの方々にも子ども達の登校を見守っていただきました。毎朝、早くから、寒い中、雨の中、ありがとうございました。地域の皆様に、こうして温かく見守って頂ける本校の子ども達は、本当に幸せだなあと感じます。



先日、文部科学省より、子ども達の通学時の安全確保に関する資料が届きました。それによると、子ども達の交通事故には、下記のような特徴がみられるそうです。

**データから見た児童の交通事故の特徴 (H24~H28の5年間)**

- 小学生(特に1・2年生)は、歩行中の事故が多い。(死傷者数は、7歳がピーク)
- 小学生死者数全体の内、小学1・2年生が半数以上(52.0%)を占める。  
歩行中に限れば、3分の2近い。(65.9%)
- 男児の歩行中死者数は、女児の死者数の2.5倍
- 小学生の歩行中の事故は、新学期開始から夏休みまで(4月~7月)と秋(10月~11月)が多い。
- 事故発生状況は道路の「横断中」と「飛び出し」が多い。
- 小学校3年生以降、自転車事故が多くなる。



**警察庁のデータより**

小学生の歩行中の交通事故による死傷者数は「7歳がピーク」ということは、昨年の秋頃にも新聞記事やネットニュースでも報道されていました。「7歳」とは、小学1年生の途中から2年生の途中迄にあたります。

なぜ「7歳」というその時期に多いのか? その要因としては、様々な要因が複合的にあるのでしょうか。主として、その頃から保護者と離れて行動する機会が増えるためと見られているようです。また、保護者も学校もそして子ども自身も、4月当初は緊張感もあり、また、特に念を入れて指導しますが、学校生活に慣れてくると同時に気持ちにゆるみが出たり・・・ということも考えられるかもしれません。

子どもを守るための魔法はありません。道路を渡る時は横断歩道を渡る。信号が赤の時は止まり、青の時は右と左をよく見て、車が来ていないかを確認してから渡る。道路に飛び出さない・・・といった当たり前の最低限の交通ルールをしっかりと理解させ守らせることが必要です。ぜひご家庭でも、お子さんをご確認ください。